

資料 1

2008 年度「芸術の現在」 最終回（2009 年 1 月 15 日、振り返りセッション逐語記録）

1 年間に実施した授業プログラムをスライドで振り返った後、受講者全員がワン・サークルになり、ワイヤレスマイクをトーキング・スティックとして使用しながら自由に授業について話し合った。

坂倉 ということで、ま 1 時間、というかま、50 分すぎくらいまでですね、50 分くらいかな。え、なんでもどうぞ、話したくなった人から、話してください。

YK こういうこと話しましょ、でもいいですか。

AS ふふ。

YK 既に（マイクを）持ってないです。・・・えー。（マイクをとる）あの、えっと。よく、結構一年間通して、

AY 持っただけ。

YK かぶってきたじゃないですか、感覚、結構 4 グループに別れても感覚のことに結局は行き着いてたりして、結構話した感があるので、それは置いておいて、ま、この授業は、学年とかを結構越えて、なんか仲良しになれたと思ってるんですが、なんで仲良しになれたのかなってことを、なんか話せれば、授業とちょっと外れてしまうのかもしれないんですけども、これもまたひとつ、人が集まってどういうふう形成していくかということだと思うので、これだから良かったんじゃない、みたいな、ことが話せればいいなと、思いまーす。

（マイクを戻す）・・・これ取りに行くの面倒くさい。お、偉い。（HK がマイクを取りに行くのを見て）

HK ちょっと、質問、質問、質問。

坂倉 はい。

HK えと、マイクを持ってないひとは、何も言葉を発しちゃいけないんですか？

坂倉 （マイクを取りに行く）

一同 （笑）

AY いけない、ってことですか。

坂倉 あーえとね、全然、そんなことも、ない。けど、一応、はな、持ってる人が話す権利があります。ってこと。うん。えー、だけ。

YK 優先される、ってこと。

坂倉 うん、だけ、あの、よろしいですか。・・・マイクじゃないほうがいいかな。

YK 億劫になっちゃう。私はためらった。・・・ね、なんか、最初るとき、

AS ルール無視してるから。

YK えー。・・・私、ルール無視していいですか。

AY なにそれ、私だけ。

坂倉 ルール、無視したいのね。

YK えー、だって面倒くさくないー？ あ、じゃ、とりあえずやってみますよ。いいですよ。私しゃべらないから。

AS 拗ねた。

AY 拗ねたなあ。

坂倉 なんで仲良くなったのかなー、ということと話したい、けどどうかな、って言ってたよね。

YK って言ってました。

AS 繰り返した。繰り返した。

AY 繰り返したわあ。

HK なんで仲良くなったかっていうのをちょっといま考えて、ぱっととりあえず目に入ったのが、「引き算から生まれるもの」っていうところで、なんか普段引き算から生まれるものとか、やらないと思うし、何かしら自分に課題を課したとしても、それは個人的に課すものであって、なんかみんなで一気にやってみようっていうものじゃないから、そういうところで、こう、あたしだけじゃなくってみんなも引き算しているみたいな、そういう共通の意識みたいなもので仲良くなったりしてきたんじゃないかなって。簡単にただ宮地豚をたべようとか、そうやってとりあえず集まろうみたいなのだったら、別にこの授業とか関係なく他の友達とも集まって仲良くするっていうのはあると思うし、もともと仲良い子同士で集まるっていうのはあると思うけど、あえてもともと仲良かったとか知り合いだったとかじゃない人たちが、そうやって集まって、共同作業じゃないけど、それぞれ個人が同じことをしてるっていうところに、なんかそういう、仲良くなるっていう要素があったんじゃないかなとか、ちょっと思ったりしました。

YK 苦楽をともにする、みたいな。

HK みたいな。

AS みたいな。

YK 部活みたい。

HM えと、私は、サークルの部室があるのもあって、よく・・・、よく、あの、学校の裏。あそこなんて言うんだっけ、東門じゃなくて、西門？ 西門の方を通るんですけど、よく。で、そこを通るたびに、最近すごく思うのが、あそこ、あれ、あれなんだっけ、慶應の。

HK 中等部？

HM あれが中等部？ 中等部、中等部を見るたびに、すごくうらやましくなるんですよ。なんか憧れっていうか、憧憬をいだくんですけど、でなんでかっていうと、なんかその、やっぱり教室で先生がひとり、担任の先生がいて、でみんなでこう 30人か 40人くらい仲良くやってたっていう、で同じ授業を 1日ずっとみんなですべて、同じ人、メンバーで。あたしちょっと高校はそういう感じじゃなかったんですね、でもま、そういうのを見たときに、すごくそれに、な、何に憧れてを抱いているかっていうと、すごくそれに憧れを抱くんですけど、で、どうしてかっていうと、

今の大学の授業って、大半がやっぱその同じ教室で同じ授業を受けているけど、他人のことを無視しながら受けていると、思うのね。でそれはやっぱり教室が広いってということと、で、たとえ話をしたとしても、それはほんとに隣の人で。その人はその教室で出会った人というよりかは、サークルだったりとか、ま、他のそのなんか機会とかで会った人とかで。もっと言うならたとえば、なんかその後ろの人が話していて、うるさいなと思ってても、後ろの人に対してうるさいです静かにしてください、って言うこともすごく少ないし、なんかその大学の授業って、すごく他人を無視して、かなり個人的に、こう進められてるなっていうのが、私が、今三年間やってきてすごく思うところで。で、この授業は、他人をすごく無視してない授業で。で、それは、やっぱいままで私たちが受けて来た小学校とか中学校とか高校の授業に似ている。で、その共同作業もそうだし、みんなが思っていることをすごくこう、個人的なことも話せるっていう場があつて。なんかそういう授業の形態、場の雰囲気は仲良くなる要因のひとつだったのかな、と思います。

TR 他人を無視されていない関係で話すと、えとすごい印象的なのが、一番はじめの授業、じゃないか。私、2回目に来たから、みんなにとっては2回目だけど、私にとっての1回目は、坂倉先生が、なんか、なんだっけ、眠い人、みたいな、眠くない人・・・から。

YK この十字のやつ。

TR そう、十字のやつからはいって、なんか眠い眠くないのところまで親切に聞いてくれる先生が、大学になってまでいるんだな、って思っ。なんかそれがすごく無視されてないなって思っ、なんかそれが印象的。てか、どうでもいいですかね。

坂倉 親切だよ。親切か。うん。

YK え、じゃあ、先生のスタンスってことに言及するなら、

AS スタンス。

YK てか、今日昼休みに三人でお話していたんですけど、そんな時に、・・・言っているの？ なんかAYちゃんが、たまに・・・。

AY え、なにになになに？

YK 先生がこう、「何しましょうかねえ」みたいになってるときがあるじゃないですか。「どうする？」みたいな感じで。ま、いい意味で、カリキュラムがこう、ピシピシピシピシって、やることは一応決まっているけれども、なんかそのなかでどうするとか、たとえばグループ分けでさえ、グループ分けなんて普段時間かけることないわけじゃないですか。それこそなんか、番号言って決めて行こうとか、そんなところさえも、こう、委ねる。「どうしたいの？」みたいなスタンスで、こう、投げたから、生徒たちもこう自分たちでちょっと、若干やらざるを得ないところとか。それこそ受け身でいられないところだったりしたのがあったのかな。っていうのと、あと、もともと、そのあの、シラバスにあの、感覚とかそういうことでやってきてくれたからっていうのがあって、その下地を、ちょっと話は違うことになるんですけど、下地を元とした上で、私が結構驚いたのは、結構みんなすごい自己開

示が結構すごかったなと思って。普段、授業で何か言われたって一言二言で終わってしまうのが、ある意味、みんながマイクを話さないというか。ひとりひとり言っていくんだけど、そのひとりひとりが、もう、ね、長い人は3分とか5分とか、話してて、それをみんなが「ああー」って言える、ていうのが、良かったなと思えました。

AY 早く、SG くん。

YK SG くん、いつもさあ。

(聞き取り不能)

SG ええっと。今の聞いて、今、ん、仲良く、なんで仲良くなったのかなーって、んー、までもなんか、なんだろ、んー、な、仲良くなれてすごい良かった、です。えーと、なんか大学の授業って、こういう授業とかってなんか、ないので、なんか、すごいこの授業になんか特別な感じがしてて、来年もなんか、こういう、なんていうんですか、仲良くなれるような授業を取りたいなど。

AY ははは。

HG 笑い過ぎや。

AS 何笑ってんの。

SG 思っています。友達の増えそうなやつ。

AY おかしいよ。

YK 友達できた？

SG なんかもちょっと、大学入ってから、一人暮らしなんですけど、なんかもちょっと、なんていうか、すごいなんか寂しくて。なんか・・・

AY ははははは。

AS あかん、笑うとこちゃうやん。別に笑うとこじゃない。

SG なんていうのかな、一人暮らししてて、家にいると、なんか独り言とかが多くなって、なんかテレビに向かって話したりしてて、まあそういうときに、友達が、すごい、いると、心強いので、この授業はすごい良かったと思います。以上です。

AY それまで友達、いなかったの。

SG いや、少なかったです。

坂倉 (遅れて来た KN に) 何でも話したいことを話していいけど、話すときにはそれを持って話す。

KN あ、なるほど、終わっちゃった感じですか、みんな。

坂倉 ううん、みんな、はじまったばかり。

YK テーマはいろいろ飛んでいいけど、最初はなんか、なぜこの授業がこういう雰囲気になれたのかってというのが、一応議題としてあがって、いまそういう流れで。

KN なるほど。

YK ジャストの議題をね。

KN なるほど。

YK て感じだよー。

KN なるほど。

AY て感じだよー。

KN で、誰なんですか、次。

坂倉 もう、誰でも。

KN あ、誰でもいい。

HM はい。ちょっと、厳しいというかシビアなことを言うと、言わせてもらおうと。私は、でもこれだけの、この人、人が集まったっていうのは、ある意味、ふるいにかけて、ふるいっていうか、みんな感性がどっか似ているっていうか、ここの授業が好きだっていう点において、残った人たちだからこそ、うまくいっているんじゃないかなと、思います。やっぱり、そう最初の授業で、あれだけの人数がいたのに、いなくなっているっていうところで、まずやっぱりちょっとこの授業に合わないなっていう、ある意味、うーん、たぶんみんながこういう感性の話したりとか、こういうことするとき、つまらないとか感じちゃったりとか、そういう人があまりいない、っていうか。から、よくまとまったんじゃないかな、っていうのも、ちょっと、なな、なんていえばいいのかな。こう、無作為に集まって、なんか、良かったね仲良くなってって言い切れるかどうかってとこに私はちょっと疑問を持っています。やっぱりどこかこういう題名にまず「芸術」っていう言葉に惹かれて、「現在」っていう言葉に惹かれて、「感性」っていう言葉で惹かれて、「創造的グループプロセス」っていう言葉に惹かれた人たちが、集まってさらに先生が最初の授業なり、ま、いままで一年間やってきた授業で、あ、自分に合ってるとか楽しいなって感じられた人が残っているから、なんか結構、何やってもうまくいって、仲良くなれてきたのかなと、思っているところ、あります。

HK なんか、今の HM ちゃんの話聞いてすごい思ったのが、あたしはまだ2年生だからいっぱい取らなきゃいけない授業があつて。で、で、しかもあたしとか YN とかって、と、履修した授業を基本的に絶対切らないタイプで。で、なんか、たぶん高校からの延長なんだけど、与えられた授業、ま、自分でとっ、大学の授業は自分でとっているんだけど、与えられた授業は、全部こなすのが当たり前だっていうふうに思って。だから、いまその、切った人がいな、おお、切った人がいなくなったっていう考えが、あたしにとってはすごく新鮮で。でも、確かにそうなのかな、とか思って。でなんか、ま、授業取らなきゃいけないから来てるんだよ、っていう人は、実際この教室には割と少ないかなっていうのは、すごい、言われて、あーそうだなっていうふうに思って、そういう考え方もあったんだなっていうのを、すごい今、思いました。

(置いたマイクが台から落ちそうになる)

一同 ああ、あああああ。

YK 今ね、4人立ち上がったから。すごいね。ははは。

AY 手、離れたのだけ？

? すみませーん。

(聞き取り不能)

EN

えと。やっぱこの。あ、この話の延長線上でいくと、やっぱりあの、この授業ってなんかすごい厳密に出席取ったりとか、そういうのがないからこそ、あの、来たい人が来るっていうか、あのみんなすごい、あの興味があって来ている人だから、そういうのがすごいあると思って。で、自分はさっきあの、い、い、えと一回ずつこれ(授業のシラバスの振り返りを)って見てて、あの、夏休みが明けて、10月中結構、来れなかった、ですよ。それを思い出して、そういえば、あ、来れてないなどと思って、であの、やんなきゃいけないこともあったからなんですけれども、それで、気づいて、なんかすごい勿体なかったなというのが、今、ちょっといろいろ後悔、です。そのくらいな、結構あの。最初グループワークと聞いて、その、いままでの経験上、グループでなんかやるっていうのは、結構自分のなかで、言い方悪いですけど、面倒くさいことも若干あって。やっぱ、それ以上に楽しいこともあったんですけど、それで、どうなるのかなって思ってんですけど、でも結構あの、いろいろあの、パスしちゃうこともありましたけど、すごいなんかあの、うまくというか、あの助け合って、いろいろ楽しくできたかなと、思いました。なんだっけ。そう、この雰囲気はすごい好きです。なんか、まったりして。

SA

はい。

EN

あ、はい。(隣にマイクを渡す)

坂倉

その手があったか。

AS

回ってくんのやろか。

SA

なん、なんで仲良くなったかだっけ。なん、っていうのはなんか、すごい話やすいこの雰囲気がすごく好きで。で、なんかなんで話しやすいのかなって、他の授業と比べた時に、やっぱでかいのはこの座り方なんじゃないかと思って。で、例えばなんか、あの普通こんな感じの机で授業受けてて、なんかしゃべんなきゃいけないってなった時、たとえば後ろのほうでなんか立って発言したら、まあ、前の人はみんなばって振り向くか、こうひたすら前を向いてシカトかみたいなの、そういう感じだと、なんか話しても、なんかこう独りでしゃべっているような、なんかこう、感じがするけど、こうやって円だったり、なんか、円だったり、座っていると、話しつつも、なんかこう、一斉にこう、みんなの表情が見て取れるというか。その辺で、コミュニケーションじゃないけど、なんかこう、独りでしゃべっている感じがなくて、だからすごい話やすく、雰囲気も良くなって、仲良くなったんじゃないかなあと、思います。

SI

えっと。なんで仲良くなったのかっていうのを私なりに考えた時に、仲良くなる時って、人は、一対一とか、2、3人とか少人数で集まって、で、自分のことを自分でこうなんだよっていうふうにみんなに話して、「あ、そうなんだ」って言い合って仲良くなるんだと思うんだけど、だけど、この授業は、こうやってみんなで円になって、で、ひとりが全体に向かって自分のことをアピールして、って言っていると、なんか、うーんと、なんだろう。2、3人で仲良くなるプロセスを、本当に全員

でやっているっていう感じだから、ひとりの人の情報を、そのまま全員が共有している感じがして、そのままみんな仲良くなっている感じがするなっていう、思っています。以上です。

HG

あ。こう、今やっていることも含めて、なんか、いろん、なんか、話す人が偏らないというか、最初は、多少偏りもあったかもしれないんですけど、普通の授業でなんか質問してくださいとか、発言してくださいっていても、だいたいしゃべる人って決まると思うんですけど、この授業はなんか、絶対全員どっかでしゃべってるなって思って。それってすごい大事なことだったんじゃないかって思いました。で、あとはなんか、その誰かが話したことに対して、今やってもすごい思ったんですけど、なんか、それを受けて、ほ、次の人がしゃべるというか。なんかこう先生が教壇に立ってこっちから質問して、それに一对一でまた返して、でまた先生が次の人に聞いてっていうことじゃなくて、まあ、先生がこの位置に座ってるっていうのもあるかもしれないんですけど、なんか生徒が言ったことに対して次の生徒が、なんか、それに対してコメントするから、生徒のあいだでそれをなんか、つなぎあってるってというか、広げあってるなってのって、それが結構あるかなって思いました。あと何だっけ。あと、あとなんか、最初に、ひとりひとりが渾名とかを自分で書いていて。で、なんか結構先生とかもその渾名で呼んで、それが私はすごい最初新鮮で。なんかそれもあるって、なんかよくわかんないけどちょっと勝手に距離が近いような感じが、なんか、その渾名があるだけでも、なんかそういう部分があったかなと、思いました。で、あとさっき SI ちゃんが、みんなで、なんかその、一緒に共有してるっていう話をしていて、私もそれすごい思って、で、なんかそれと同時に、なんか少人数で集まる機会も要所要所にあって。みんな全体でやって、少人数でやって、全体でやって少人数でやってっていう。なんかそのバランスが両方あったから、で、少人数の面子も毎回一緒じゃなくて、なんかいろんな人と少人数になる機会があって、その両方がうまく組み合わさって、なんか全体で仲良くなったのかなって思いました。はい。

KN

は。はっ。

AS

なんか降りて来た、神が。

KN

えー、えと、遅刻してすみません。毎度遅刻してすみません。

AY

何してるの？

坂倉

パン食べてんだよね。

KN

お腹減っちゃって、

AY

先生、なんでそんななんか、知ってるの。

KN

はい。で、ですね。えと、あの最初に、あの、授業、この授業のイメージが大分最初と、最初とはちが、最初に来た時に、あのなんか、芸術の現在って、感性で、創造的プロセスと書いてあって、なんかすごそうだなって、なんか、なんかすごい人たちが、ものすごい会話をして、「ほ、おー」と思う感じなのかなって。行ったら、あれ、ゆる、って。思って。なんか、なんだろ、なんかすごい身近なところ

から攻めてくから、逆に正直、身近すぎるんじゃないかなって思って、ちょっと最初は、なんか、うーん、これは、どういうものが最後に得られるんだろうって、内心想ってたんですけど。すごい、え、なんだろ、でもなんか全部、なんかちょっとそう思っている、認めてくれるっていうか、あまり答えを強要しないっていうか、「ここだよね」みたいに決めないで、なんかしかもみんな思ったんだー、っていうだけで、なんか、「おも、思うよね」みたいなこと言わないから、そういう怖い、怖い感じの人はいないし、なんか強要しないから、安心して、あ、じゃあちょっと様子を見てみようかなとか思って。いたら、あのなんだろ、うん、なんかすごい、うーんと、うん、なんか、あ、うん、なんか、慣れちゃって、あ、なんか、身近な話が多いからちょっと安心しちゃって、それで、なんか、ちょっと、遅刻しちゃったりしたんですけど、なんか、あ、受け入れてくれる感じがして、なんか、ちょ、ちょっと違うこと考えたりしても、ま、いいし。あとは、すごい、身の回りから攻めて行くから、安心感があって、その辺のなんだろ、設定の仕方が良かったのかなって、思いました。はい。

AY (マイクのスイッチを入れる) えーと。あの一、え、だめですか。

坂倉 いいよ。

AS マイクやもん、だって。

AY えっと、思ったのは、んと、話すことが全部、思ったことだからだと思います。なんか、わかったこととか、理解したことを話すときっていうのは、結構、筋道立てて話さないといけないから、自分の言葉で説明するっていうよりもなんか、発言するまでのちょっと、考えてから言わなきゃとかって思うけど、この授業は、ま、感性、なんで、なんでっていうか、あのなんか、思ったことそのまますぐぱっと思ったら、ぱっと言えるみたいな感じだから、みんななんかの話し方が若々しいし。ねえ。だからなんか、それが、話し方って、結構、人柄を表していったりするから、なんかそれで、あーこの子ってこういう子だなあ、おもしろいなあみたいな感じで、近づいていってるんじゃないでしょうか。どう思いますか？ 藤原くん。

AS そうですね。ええ、そうと思います。

AY 先輩。

AS はい、え、別にそうと思います。

(聞き取り不能)

AY ただそれだけかな。・・・と、とーげん、えーさい。

AS ちが。

AY とーげん、えーさい。

YK 藤原くん、顔赤いの。

KN えーさい、ってほんとのふりがな、えーさい？

AY とーげん、えーさい。

KN いや、どっちかなって。・・・友達で (ぶつぶつ)

(聞き取り不能)

AY そういう系だったら、えいしょうになる・・・。
(ひとりが、マイクが乗った椅子を WB の前まで移動させる)

YK 強要、強要。強要された。

WB あー、あ。みなさんなんでしゃべりやすいのかなってという話で、ま、それは先生の力量が・・・

AS 間違いない。

AY なにそういうの。

WB みんなそれは・・・

YK 「5」とかないから。

TM 「S」だ、「S」。

AS 「S」、「A」の上。

WB なんかこういう、しゃべりたがりの人たちを、の集まりを・・・

AY しゃべりたがりなんだ。

WB 統制、統制していくのは、ものすごいことだなと思って。なんかはしばしに、言葉のはしばしにやっぱり、そういう技術が見えて、やー、あの、なんだ OH カードをやったときに、最初は先生が、その中心になってやって、そのときの雰囲気っていうのは、経験してから、その、先生がいない状態で OH カードをやって、それもそれでなんかいろんな点があって面白かったんですけど、やっぱりなんか全然、こう、違うもので、その空気の質っていうか。やっぱそういうのは、なんかいろいろ、この、グループ同士で学ぶことも多かったけど、そういう先生のどうやって話を進めてきたかっていうのも、やっぱりいろいろ考えるところがありました。という、成績をつけられるまえの、ちょっとこう・・・。

TR え、その坂倉先生の、なんか、節々に見えるスキルというと、たとえばどこですか？

WB え、僕？ え？ さっきもあったけど、なんか、あの一、「どうしよっか」みたいな、あんまりこう、決める、物事を決める加減みたいなのを、考えているなって。です。

AS 発言量みんな増えたな。

AY おまえは？

YK えと。私も今言ったこと思ってて、先生、私たまに見てる時に、

AY 先生たまに見てる。

YK あの一、たとえば、みなさんはよく覚えているのが、机は一個の机で4人とかしちゃうと書く場所無くなっちゃうから、ちゃんと4個にしなさいとか、言ったのとか。なんかそういう話、話させるときのやつとか、やっぱ、やっぱさっきも言ったように投げ方も、実は先生考えてたのかなと思うんですけど。

AY 投げ方？

YK うーん、その、ま、一見ね、「やれば」みたいな感じに見えるようでね。で、私がちょっとさっきから、ちょっと話題を、もし次、できたなら変えよっかなって思ったのが。結構そういう先生のやつで私普段の生活を思い出したりするんですよ。他

の授業でグループワークする時も、なんかね、机ってこういうふうにしたほうがいらしいよ、とかいってやってたから。で、もし話題を変えていいなら、みなさんはなんかこの授業をどんな時に思い出しましたか。みたいな。もし、それが乗っかれれば、どうぞ。私はそういうときに、なんか、

AY 普通の日常生活で、ってことでしょ。

YK そうそう。とかで。あ、こうやってたとえば、何か忘れちゃった時に、とかに、あ、そういえばこういうふうに、一週間なくしたとかいって、なんかそういうふうにか、この授業で何か得たものを思い出す瞬間で、あったのかなーって。私だったら、先生がそういうふうにやってたのを実生活に活かしているよとか思ったりしたかな、みたいな。なんか感覚、何か触った時とか。が、あった。ちょっと難しい質問かもしれないです。なんかあったら後々。

坂倉 あと 20 分くらいです。

一同 えー。

YK 先生、どんな時思い出すんですか。この授業のこと。

AS 私のこと思い出すの、みたいな。

坂倉 YK のことをいつ思い出すか。えー、この授業をいつ思い出すか、っていうことで言うと、えー、結構、ずっと考えていますよ。もちろんね、あの、毎秒考えてたら他のことができないんで、えー、結構ずっと考えていて。ひとつは、ま授業をど、来週どうしようかなとか、次どうしようかなとか、いまみんな引き算してるかな、とかね。あのグループ大丈夫かな、とか、そういうことをもちろん考えていることは、結構ある。かならず一日一回以上は考えている感じです。えー、それをやらないと一週間後に来た時に、ついていけなくなっちゃうんで、あの自分もそのあいだちゃんと何かをこう、えー、気持ちを離さないでこうやる。ということはしていました。というのと、もういっこはね、あの一、えー、なんかさっき僕がどういうふうに、何を、ど、どういうふうな、どういう意図で、なんか、投げかけをしたりとか、えー、はなし、話し方とか調節とかしていたかっていう話がでただけで、ま、それはもちろん、えー、それはもちろんあたりまえだよ。あたりまえ。それを考えて接するのが当然なんだけれども、えーと、なんかそれよりも、みんなの、なんかこう、それぞれのこう、パーソナリティの働いていうのが、えとすごく、うーん、心強かったなあって感じは残っています。で、だから、普段、普段、日常生活で感じているのは、授業どうしようかな、困ったなどうしよう、みたいなそういうことよりも、あのなんか、授業、この授業がこういう形でこう、えとみんなのこう、えー、働きがこう、悪くない形でこう、発揮できてるような場になっていていることが、日常生活でも僕にとっては結構励みになったというか。えー、直接授業と関係ないんだけど、そういう意味で、そういう意味で日々印象に残っている授業だったな、というのは正直なところ。本当に僕はな、べ、な、僕が何をしているというより、僕が感じているのは、みんなすごいなーって、見てる。見てるといふかね、ついていっているという感じです。え。

YK あの、さっき自分で話題振ってたのをおいといて、今ちょっと発言していないの、たぶん、TM と、ななちゃんと、え、藤原くん？ と思うんですけど、この3人に共通点を私見つけたんですよ。

HK あ、まりちゃん。

YK ちょっとまりちゃんは、置いておいて。

HG 置いといて。

AY 寝てるからいい。

YK 置いといて。あの、確か去年とかも授業とったり、一昨年とかも。一応こう、履修はした、みたいな。

AS あ、俺ははじめてや。

YK はじめて？

AS うん。

YK TMは？

TM 4回目？

AY そうなの？

YK あそっか、じゃあ、ななちゃんとTM？ が、は。

NN 私は去年・・・

AS あと、TO。

YK なんかもみんな、じゃあ、合ってない？ 私の、共通点。

TM 大丈夫。続けて。

YK ああ、TMは、今日、今回、残ったのは今回はじめてだ、みたいなこといつか言っていたのを聞いて、で、なんで今回は残ろうと、残れたのかな、と思って。

AS 残れた。

YK ってこと？

TM 今年で大学生活終わりにしなきゃとかね、そういう話。

坂倉 ま、そりゃそうだよな。

YK そこなの？

TM ま、それは、半分冗談。半分本気みたいところで。いや、毎年、たぶん4年間あわせて6回くらいかな。4年間じゃないか、前の3年間は、たぶん合計で5、6回出て、ぐらいなんだけど。だいたいあの、ガイダンス最初行って、いっかな、みたいな。で、なんかその、たまにガイダンスじゃない時に出て、でもやっぱ去年までは教室、ま去年ちょっと三田の家か、だったかもしれないですけど、その時は行ってなかったけど、前、教室だったんですよ。で、ま、先生がもうひとりいたんだけど。その、教室でやっぱやっていた時は、まあなんか、話し合ってくれとかなかった時は、話す人がやっぱ決まってて、結構。同じ人がすげー何回も発言してて、その人は別になんか変なこと言っているわけじゃないんだけど、なんかテンションが結構ずれてて、周りの人はなんかポケーみたいな感じで。たまにしょうがないから先生に振って、先生とそれに、二人ぐらいでこう、ずっと会話が続いているのを見

てて、ああ、大変そうだなあって。たような記憶があつて。でやっぱこの椅子の使い方とかこういうふうにしたのは、なんかそういうのもあつたのかわかんないんですけど、まあなんか変わって、本当、今年はまあ、ずいぶん、ず、ま、出たっていつでも出てないですけど、割とまあ、一年通して見てた感じでは、本当に、ま、さっきも誰かが言ったと思うんですけど、その発言量の個々の差っていうのが、前行ってた時に比べるとずいぶん無いというか、みんなやっぱり、なんか、ま、別にみんな発言しなきゃってわけではないと思うんですけど、ま、自発的にある程度いろんな人が発言してたのは、まあ、ちょっと違って、良かった部分かなって思う。ま、あと全然、今年がどうとか全然関係ない話になっちゃうんですけど、最初その「芸術の現在」って授業を始められた時は、たぶんなんかもっと何も決まっていなくて。何を授業でするかを話し合おうみたいな。なんか、その辺までもう、下がっているところがあつて。それで行けんのかな、と思ったら、やっぱ結構行けてなかったところが、若干ありましたよね？ やっぱ、そこまで自由にされちゃうと、みんな何も決められないから、結局なんかぐだぐだになっているうちに割と時間使っちゃって、途中でちょっと、まあ決めることは決めなきゃみたいな、なんか変わって行ったりっていうのもあつたかと思うんですけど。今年は、その、最初、ガイダンスとか来たときに、割と途中までまあ、全部ではないですけど、割と一年の流れが決まっていたから、まあ、うまく回るのかな、と思ったら、やっぱ、グループ分けとかしてなんとなく、こう、最低限ちょっと、形つくって決めたら、結構うまく回ってたように見えたんで、まあ、よかったで・・・なんか。みたいな(笑)。

AY そんなだったんだ。

YK 長老の話。

TM で、まあ、わかんないですけど、ま、逆に、僕はその、決まってるってのがあると、なんか、それが厭だなあって思ったんで、勝手に違うことやっていいですかって言ったら、ま、割と「いいですよ」って話で。で、ま、ワークショップとかやらせてもらったんで、本当、ありがとうございます。っていう。

AS ていう。

AY ていう。

坂倉 ていう。

AY ていう。

TR ていうじゃねーよ。

TM いや、なんか割と、最初言った時は誰も来ないっていう、確信して始めたんですけど、案外授業の人いっぱい来てくれて。なんとなく盛り上がった感じだったんで。なんとなくかよ。

AY なんとなくかよ。

TM どうも、ありがとうございます。はい。そんな感じで。

YK (マスクをしている NN に) あ、しゃべれる？

NN えーとー。みなさんがなぜこの、今回の授業をこういう雰囲気できたかって話を、えー、理由を聞いていて、それは全部あたってはいるんじゃないかなと。私は、去年

の授業もずっとフルで出ていたので、それとの比較から言うと、えーその指摘はすべてあたっているなというふうに感じました。えーと、去年がやっぱりこういうふうに、あの、去年もしたんですけど、んー、発言する人は発言するし、私なんか去年は全体に向かって発言した記憶がほとんどなくて。こういうふうに。で、それはやっぱりこういう座り方によるところも大きいし、あとあのHGちゃんが指摘してたんですけど、ま、グループワークをやって、それからひとりひとりがみんなに話しかける時間ていうをとってたって言ってたんですけど、ま、それができると、その、別に論理だったことじゃなくて、思ったことをみんな自由に発言できるようになっていったので、そういう意味で、こう、いい循環が出来ていたのかなというふうに、え、思います。えと、別に今日、なんか、私がなかなかしゃべらなかつたのは、単になんか、ちょっとしゃべりづらいからっていうことだったので、はい、別に共通点とかはないと思います。

AY ないって。

TM 一緒にしないでって？

YK あ。

(TO、遅れて教室に入って来る)

AS あ、TO氏。

AY TO氏。ティー、エー、オー。

(席をつくる、しばらく椅子を動かすノイズ)

HG ここでよければ。

HM TOくんってさ、ドリカムのさ、ギターの人に似てない？

TO ベース。

一同 似てるー。

TM ギターはクスリをやって捕まった、

TO 捕まってないから、俺。

TM 覚醒した人だよ。

HG 覚醒した人。

(聞き取り不能)

AY 生え散らかしてる。

HK 生え散ってます。

HG ASくんが戸惑っているのが。

AS いや、なんか話したいんですけど、なんかまとまりが、いまいち持てないんで。話の、話す内容に。ちょっと、もうちょっと考えたいんですけど、いいですか？

TM はい。

YK なんも、藤原くん、話、考えてんのかなと思って、私。

AS あそ。

TR もう残り少ないよね。だからもう、話したいこと話します。

AY そんなあんの、なんか。

TR 無いけど。なんか私ほんとのこの授業、すごい楽しかったです。なんかみんなにすごい会えてよかったんだけど。あ、なんか「but」じゃないんですけど。なんか、なんでかなと思ったら、私も、すごいみんなと同じように発言できたなと思って。で、なんか私、たぶん発言してたと思うんだけど、他の授業で実は発言をしません。本当は。で、なんか、あの前、所属していた研究会で、なんかすごい私はいつも自分の思いをしゃべれなかったんですよ。で、なんかその中で、すごい、ここはすごい本当しゃべりやすかったのは、なんか本当みんなが、ちゃんとなんか聞いてくれると思ったからしゃべったし、だから、こういろいろしゃべれたんだけど、なんか本当にすごい、いい機会になりました。で、なんかその、これを機に、なんか、これからたぶん、こんななんかいい人ばかりじゃないと思うし、しゃべれないことも来ると思うんだけど、そんな時に、なんか、あの、しゃべらない、なんての、これを機会に、本当しゃべろうと思いました。なんか、自分でなんか本当、どうにかしようっていう。できないなら自分で発言、なんか自分が自らしていこうっていうふうに思えるような授業でした。で、本当になんか、「芸術の現在」っていう、なんか、タイトル通り、なんかこのうちらが「芸術の現在」だったんだなーって。なんか、証、みたいな。あ、ごめん先生、勝手に思っちゃったんですけど。私は、これこそが本当になんか「芸術の現在」だったんじゃないかなっていうように、思いました。本当、みんなありがとうございます。

AY 最後の人みたい。

TR しゃべりたいことあったら、本当に、しゃべったほうがいいよ。

YK アートだったよね。・・・というシステムです、TOくん。

TO はい？

YK というシステムです。

TO なんかあれ、解散ライブみたいな。

AY 普通の女の子になります。

TM みんなキャンディーズ。

HG なんか、TRちゃんが、その、自分の考えていることを言うのが大事だって話をしてて、私もそれ、すごいこの一年で感じて。なんかこういうその、授業とかそういう場じゃなくても、なんか普段、なんか結構、今までって、自分が考えてることがあっても、結構自分のなかでしたためていてだけで、結構そこで完結しちゃってたなっていうのをすごい思って。それをなんかちゃんと、なんか自分の考えていることを話すってすごい大事なんだなって、なんかこの一年かけて、その、こういう場じゃなくて、普段のなんか身近な友達だったりとか、家族だったりとか、そういうレベルでも、なんか、なんかそういうのって大事なんだなって、ちょっと、いろんな場で、こういう、この授業のことを思い出して、なんか、思いました。本当、この一年、え、なんだろ、楽しかったです、私も。ありがとうございます。はい。

TR マイクの奪い合い。

TO カラオケか。

AY えと。私、この一年間が、すごい、4年間最後だから、なんか結構、4月くらいから一と、この一年間か、あー大学4年間でこういうこと学んできたな一とてことばかり、一年間考えてきた気がして。で、それを、でけ、なんか、秋際のあの発表したやつでもそうだけど、あれは、4年間の集大成だと思っていて、それって、なんか自分でどうにかするという、しようという、なんか自分で考えて自分で行動して、行動までいなくても、ま、自分で判断するみたいなことを、4年間で学んだ気がして。それ、この授業は、それを、んー、証明じゃないけど、納得するもの、であると同時に、それを実践するような授業だったな、と思います。えーと、後。なんか授、この授業で、やっぱり自分が今まで考えてきて、これってこうなんじゃないかなーみたいなことを、でも考えるのは飛ばせることもできるけど、ちゃんと考えようとしたこと、っていう経験が大きいと思うんですけど。特に「リアル」についてとかで、なんか、常に考えていることだけど、そんな、なんか、二人でずっと、こうなんじゃない、ああじゃん、なん、なんじゃないみたいな感じでは、もしかしたら授業がなかったら話す機会がなかっただろうし、それがきっかけで、なんか気づくこともいっぱいあるし、なんか気づいたと、新しく気づいたというよりも、やっぱそうなんだなって、思います。思った一年間でした。ちゃんちゃん。・・・
どうすか？

(マイクを渡す)

AS どうすか？ ああ。そうっすねえ。いや、わかんないですけど、なんか日常会話の延長っていうか、ま、日常会話だったな、っていう気がします。そこに、たぶん仲良くなれたポイントがあるのかなと思って。なんかその、ま、授業とか入ると、あの扉に入る時に、あ、これから授業なんだとかいう、そういうあの切り替えモードみたいな気がするんですけど、まあ、それが無いというか。入る時もなんか、しんどいままこう、あの扉の前まで来たら、そのまましんどいままこう入って行く、という。で、みんながぱっと向いても、「いや俺しんどいから」みたいな感じで、いていい空間だったなと。そういう日常な感じがあったなと思います。ま、あとは、まその、先生という立場も特になく、ま、普通に、ひとりの一員みたいなところがあつたなあ、と思つてて。なんか、適当やなあつて、何も考えてないんじゃないかなこの先生は、と、思わせるようなところが良かったなあと思います。

AY 実は違うの？

AS 実は、違う。でも実際本当に、なんかもう何やったらいいかわからんわ、みたいな感じでテンション下がってるのかなっていうふうにも見えて、やでもいや、考えてるやろみたいな、その感じがよかつた。

AY 人間らしいですね。

AS らしいですね。よかつたと思います。あとなんか、名前を覚えれたとか。その人がどんなポジションなのかとか、キャラクターなのかっていうのが、まあ、覚えさせられるというか。っていうのが、ま、たぶん、人それぞれ、たぶん、どの人の名前を最初に覚えていくかというのは違うと思うんですけど、その人が、こう、その人に

対して何々ちゃんとか何々くんとか呼びかけるの聞いて、あ、あ、あいつそういう名前やったなみたいなのが、こう、感じれて、ま、すごいよかったなというのも、一番最初の段階の、仲良く、良くなるポイントとしてはあったと思います。はい。
(隣に渡す)

SA はい。ありますよ、えっと。

AY 回す感じなの？

AS え、おまえが回してきたんやん。

AY そうなの別に。

TR きみが回したんでしょ。

SA この授業で学んだことが一個あって、大きいのが。なんかそれは、なんかこう、感、自分が感じた感覚を、こうひとりで溜め込むんじゃなくて誰かと共有することで、こう、違う感覚が開けるんだってことを学んで。えと、もともと美術館とか行くのが好きだったんですけど、私はいつもひとりで行くのが好きで、こうなんか数人で行ったらなんか自分のペースで見れないし、厭だとか最初思っていたんですけど、なんかたとえばその、美術鑑賞だったりすると、そのなんか、奥村さんの時に、こう、みんなでこう、こういう見方もあるよ、こういう見方もあるよって、あれもすごい面白かったし、HEREing Loss の、なんかワークショップとか行った時も、そういう人によって聞き方とか音の聞き方が違ってて、そう、それをみんなで共有して話し合うことで、もっともっと面白い聞き方とか面白い見方ができるんだよっていうのを、すごい学んだから、私は、次からは美術館は誰かと一緒に行こうと思いました。そんな感じです。一年間ありがとうございました。

YK でもそれで行って、しゃべりすぎたら、怒られた。

SA 気をつけます。

YK それと同時にちょっとだけ先生、ごめんね。ちょっとだけ勉強していると、実はやっぱりファシリテータの役って大事なんじゃないかな、って思います。ちょっとだけある程度知っていてやるのと、二人でただ雑談しているのとちょっと違うな、ていうこと最近思いました。

EN えーと、え。まとまったら言います。

TO あ、俺か。

AY 回さなくてもいいんだよ。

TO こんばんは。

YK あーあ。

AY あーあって。

TM やっちゃった。

TO おまえに言われたくないなー。

TM だと思った。

TO なんすかね、あの一。なんかすごい、なんかマクロな視点で、適当な、なんか話をするとすると、なんかその、昨今は、その集団の力っていうのが、非常に、

TM

広げたなー。

TO

広まってきていると、結構真剣に思っている。なん、それはなぜかという、集団でいると、あの、いろいろ面倒くさい要素というのが多いじゃないですか。なんかその、いろいろ。言ってしまえば、まあその、わざわざしゃべったりとか、その結果を求めるまでの答えを出すまでの流れってというのが、非常に実は時間がかかることで、面倒くさいがゆえに、最近はそのようなのは合理主義という名の下に淘汰されて、てことを、まああの、非常に思っているんですが。なんていうか、その、過程ってものに対して、その、いろいろ、ま、あの、向き合うっていうのは、あの、結構やっぱり大切に。なんかそこが、なんていうか空洞化してしまうと、非常につまらないなあ、と、思っています。それによりなんか人間関係っていうものも根本的に質を変えてしまうのが、非常に自分は寂しいと思っていたんですけども。その、でも、この授業っていうのは、それと結構逆行したことをやっていて、その、答えを見つけるまでの、プロセスであったり、その人間関係といったものを、なんか、結構大切にしている。で、なんかそれがすごくいいなって思ったし、逆にその授業に、最終的にこれだけみんな、あの、顔を出すようになったってことは、そういう、なんかその、なんか話し合いだったりプロセスを大事にするっていうような願望っていうのが、実はまだまだ、あの、人々のなかで、死んではないのだなというのを、自分は思っている。ちょっと、嬉しくなりました、っていうのは、ありますね。だから、そのなんかすごい、人類に希望を持てたかな。

AY

でかいなあ。

TR

でけー。

AY

人類か。

EN

えと、あ。えとそのやっぱグループでやるっていうのに関して、うちもなんかさっき言ったんですけど、若干ちょっと面倒くさいなって思うところあったんですけど、まそれこそやっぱり私も、なんかサークルとかで、その、なんか結果を求めるのが重視されちゃって、その過程が、なんか適当になっちゃったりとかして、っていうのもあって。それでやっぱりこの授業は、その過程を大事にしててっていうのは、すごい思いました。で、ちょっと。発表とかにしても、結果じゃなくてその過程を発表する感じで、それでみんな、わーって話し合うとか、えと、あって。えーと、その、テーマも、感性っていうことで、結構あの、私なんかもう、あれなんですけど、しゃべるのが苦手っていうか、それやっぱ気づいたんですけど、その言語化するのがすごいあれなんですけど、それでもみんな聞いてくれるからしゃべるわけで。えと、その感性をみんなで共有しようとする場が、もちろんあの発したことに関して、すごいうまく拾って、感じて、わかるって言うてくれる人もいるし、違うふうに拾ってくれる人もいるし。そしたらあの、あっそういうふうにも取れるんだっていうふうにわかるっていうのが、うんと、すごい、あの、共有するものが、すごい、感性っていう、不可能だから、あの、それでもみんな共有しようっていうふうにがんばれたから、結構あの、仲良くなれたのかなっていうか、すごい、思いました。す

いません。

AY なんか過程の話で思ったんですけど、あのなんかまた新しく思ったことを言えば、ということになっちゃったけど、なんか、過程を大事にするっていうのは、あ、過程って、家じゃないですよ。あの、なんか、その、目の前に自分が今見ているものをそのままにしないっていうことなんだな、って思いました。なんかたとえば、えっと対立するものがあるって、過程があれば、それをなんかどっちかが勝つっていうことじゃなくて、過程を大事にして納得した結果で、その対立っていうのがなくなると思うんですけど、だからそのそもそも対立じゃないんですけど、でなんか、それを……。あれ、何を言おうとしたんだっけな。そう、あそれであと言いたかったことは、なんか過程を大事するとちょっと似てるのかなと思ったんですけど、私、なんか、自分がやりたいからみたいな感じにちょっと近い形で、あの、夏の最後の時にヒップホップについてって話したわけなんですけど、なんていうか、その、自分が好きなもの、私はずっとヒップホップが好きで、で、その好きなものに対して、そのまんまそうにさせておくんじゃないかって、何で好きなの、好きになったんだろとかって考えることで、過程が知れるわけじゃないですか。そうするとなんか、そのままあるだけじゃなくて、なんか生き生きするっていうか、そういうことって、それでまたなんか自分も知れていくんだな、って思います。どうすか？

AS あ、いいと思います。

SA ひやああ、ごめんなさい。
 (ズボンのチャックが開いているのを指摘される)

SG えー僕、あれなんですよ。

AS また？ また？

SG なんで。

TO そのGパンが悪いんだよ。

SG え、ちょっと。

TM ウエストがきついんだよ。

SG そうかもしれない。ちょっと、なんか。

AY ストレッチ……。ストレッチしてる間ずっと開いていたんだよね。

SG そう。

AS ストレッチでパワーが溜まった。

SG なんか、こ、なんかそのワークショップやった時も開いてて……。言って欲しかった。

AY 気づいた？

TM ……。ギャランドゥにはなっていなかった。

SG あ、MRさんまだしゃべってないから。MRさんしゃべってない。

AS すごい、最後の締めが。みたいな感じが。

MR いや、はい。

YK 今助けてオーラが出てるね。がんばれ。

MR あ、はい。私は、なんか、みんながすごいこう仲良くなれたのは、えと私は三田の家の存在も大きかったと思います。思ってた、もちろん、ま、忙しくて行けてない時もある、ま、この授業があつての三田の家だと思ってた。で、私のなかでは、これに出て、またそのまま三田の家に流れてってというのがこう木曜日の過ごし方みたいになっていたので、なんかこう、それも含めてなんか、あ、チャ、チャイムがいまちょっと。残り時間もあとないと思うんですけど、(チャイムが鳴る) 寂しいな、って思っています。で、ま、今日も、そうですね、寂しいんで、ちょっと、なんか、春休みとかに、

YK 合宿に行かなきゃ。

MR 合宿に行こうって話があるみたいなんですけど。

一同 え、え、え。

YK ほら、養老天命反転地。

AS 養老か。

坂倉 なるほどね。

AY 作品名はしっかり覚えてください。

TM すいません！

YK 言えたもん、ちゃんと養老天命反転地って言ったお。いや、ここ行くのいいんじゃない、って話を。

TM そこは大事なんだ。

AS 厳しかったな、松田さん。

YK してたんですけどー。

坂倉 俺も行ったことないんだよね。

YK してたのですがー。で、三田の家で話し合ってもよかったんですけど、やっぱりここでこうやって言うことがね、大事だと思って、みなさん行きます？

一同 行きたーい。行きたーい。

AY どこにあるのー？ 岐阜県の？

YK 岐阜県だよ。ちょうどなんか・・・
(合宿について相談がはじまる)

YK え、先生、話していいんですか？

坂倉 えーと、じゃあ、鐘がなったことなので、とりあえず一旦授業は、

YK レポートのこととか？

坂倉 はい、ここで終了にして、その合宿のことを相談してもいいし。でも、YN 今、

YN はい。

坂倉 今もう、来たばかりだよ。言い残・・・。

YN 大丈夫です、だいたいの流れは掴んでますね。

HK 掴んで？

YN 掴んでないです。掴みます。

坂倉 えと、まだもう 10 分くらいみんな大丈夫？ ですか？ そしたらですね、じゃあ、

えー。

TR え、YN しゃべってもらったら。

YN あ、いや。

HG SG くんもよかったの？

TR なんか感想みたいなの。

TM いや、チャックが開いてたってこと。

HG マイク譲って終わっちゃって。

坂倉 じゃあ、ちょっとだけ。

(YN に流れを説明しているあいだしばし雑談)

YN はい、この授業に関して。一年通しての感想でもいいですか。

坂倉 なんでも。はい。

YN はあ、な、なんでもなら。一年通しての感想。まずこの授業すごい衝撃的で。こんな授業今まで受けたことがなくて、みんなで外に行ったりとか、机ないし、みたいな感じの授業って受けたことなくて。まあ一年間すごいなんかいろいろ初めて初めて初めて初めてで、まあ全然飽きなくて。楽しい授業だったなあと思いました。はい、で、学年とか、たぶんみんな全然ばらばらなのに、なんかこうやって仲良くなれたりとかしたんで、はい。楽しかったです。言い残したこと、えー、ない、特にないんですけど、特にないです。はい。ありがとうございました。

坂倉 ありがとうございました。じゃあ授業これでおしまいです。お疲れさまでした。

一同 お疲れさまー。(拍手)